

# 県道塩平～窪平線拡幅工事に先立つ牧丘町曲田遺跡調査報告

高野玄明

- 
- |               |         |
|---------------|---------|
| 1 調査に至る経緯     | 4 遺構と遺物 |
| 2 遺跡の位置と地理的環境 | 5 まとめ   |
| 3 周辺の遺跡と歴史的環境 |         |
- 

## 1 調査に至る経緯

曲田遺跡は、山梨県牧丘町請地字曲田に位置する。山梨県土木部塩山土木事務所から県教育委員会学術文化課に県道塩平～窪平線拡幅についての事業計画が提出された。そこで、学術文化課から依頼を受けた山梨県埋蔵文化財センターでは、試掘調査の必要があることから、学術文化課・埋蔵文化財センター・塩山土木事務所・工事請負者の立ち会いのもと、協議のうえ、試掘調査を行った。

試掘調査は、1992年1月8日、道路拡幅部分に、重機を使用して6カ所のトレンチを掘り、遺構・遺物の確認作業及び土層断面観察を行った（第3図）。その結果、1～3号トレンチは、台地の肩から斜面にかかる部分であり、遺構・遺物は確認できなかった。4・6号トレンチは台地平坦部であるものの、遺構・遺物の存在は確認できなかった。5号トレンチからは、地表下約60cmの盛り土下部に、焼土・炭・土器片を包含する黒褐色土層が検出されたため、確認部分についてのみ、1992年1月23日に調査を行うこととなった。

## 2 遺跡の位置と地理的環境

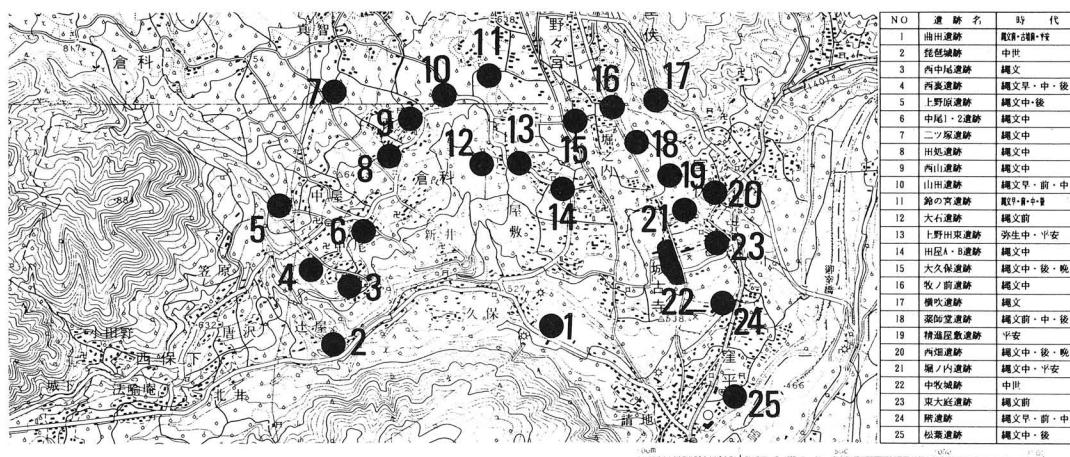
本遺跡の立地する牧丘町は、山梨県の北部中央、甲府盆地の北東部に位置し、総面積の約80%を山地で占める。北は国師ヶ岳、奥千丈岳、大弛峠を境として長野県南佐久郡川上村、西は倉沢山、乙女高原を境に甲府市、東は奥千丈岳、シベラ平、大烏山を境に三富村、南は天狗山などを隔てて山梨市、東南は笛吹川を境に塩山市に接する。耕地は、笛吹川流域やその支流の琴川、鼓川、井戸川などのつくる小扇状地と緩急複雑な丘陵地、可岸段丘上に開けている。土地は良く、灌漑も便利なため、現在はブドウ・モモ・スモモなど果実の生産と一部養蚕を営む農村地帯である。本遺跡は、笛吹川水系鼓川の南傾斜面の可岸段丘上に立地する。

## 3 周辺の遺跡と歴史的環境

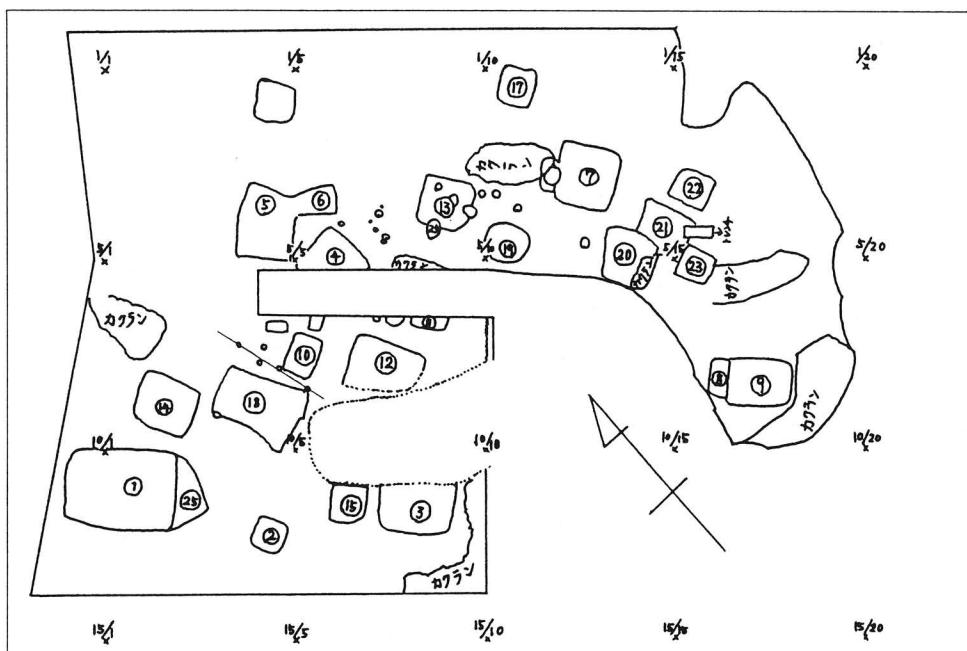
曲田遺跡周辺には数多くの遺跡が存在している（第1図）。1・曲田遺跡は、笛吹川水系鼓川の南傾斜面の河岸段丘上、標高510m付近に立地する。今回調査することになった県道のすぐ北側には牧丘町工業団地建設に伴う調査が、1992年2月8日～9月16日まで、牧丘町遺跡調査会が発掘調査を実施している。調査の結果、遺構は、縄文時代前期後半の竪穴状遺構3軒・古墳時代前期の住居址13軒・平安時代末期の住居址10軒・住居址と思われる遺構1軒・棚状遺構1・土坑16基が検出され、遺物は、黒曜石・水晶・台付甕・器台など縄文時代前期・古墳時

代前期・平安時代末期の複合遺跡であることが報告されている<sup>1)</sup>(第2図)。

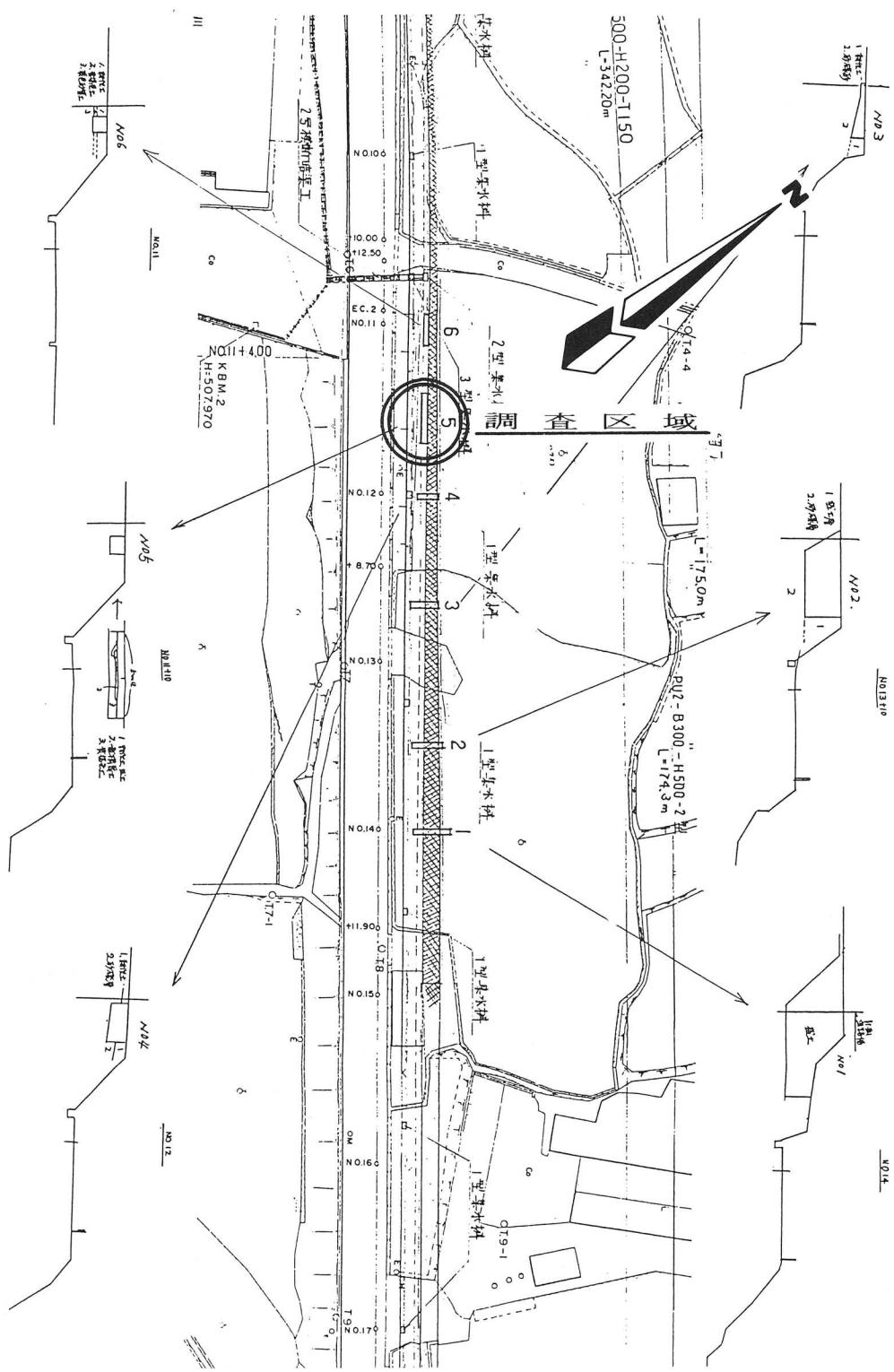
第1図で示したほかに、昭和48年に発掘調査された、古宿道の上遺跡が知られている。2軒の敷石住居が検出され、時代は縄文時代中期・後期初頭のものと報告されている。町内には縄文時代の遺跡は、上野原遺跡・東大庭遺跡・精進屋敷遺跡・松葉遺跡・西裏遺跡など、縄文時代早期から晩期に至るまでほぼ全般にわたり、町内の台地や丘陵上に遺跡が展開している。弥生時代になると上野田東遺跡など遺跡数は激減する。古墳時代の数は少なく曲田遺跡に代表されるが、ほとんど見られなくなり、奈良・平安時代になると遺跡数は増大してくる。この様子から奈良時代以降になって集落が定着し、発展していったと考えられる。



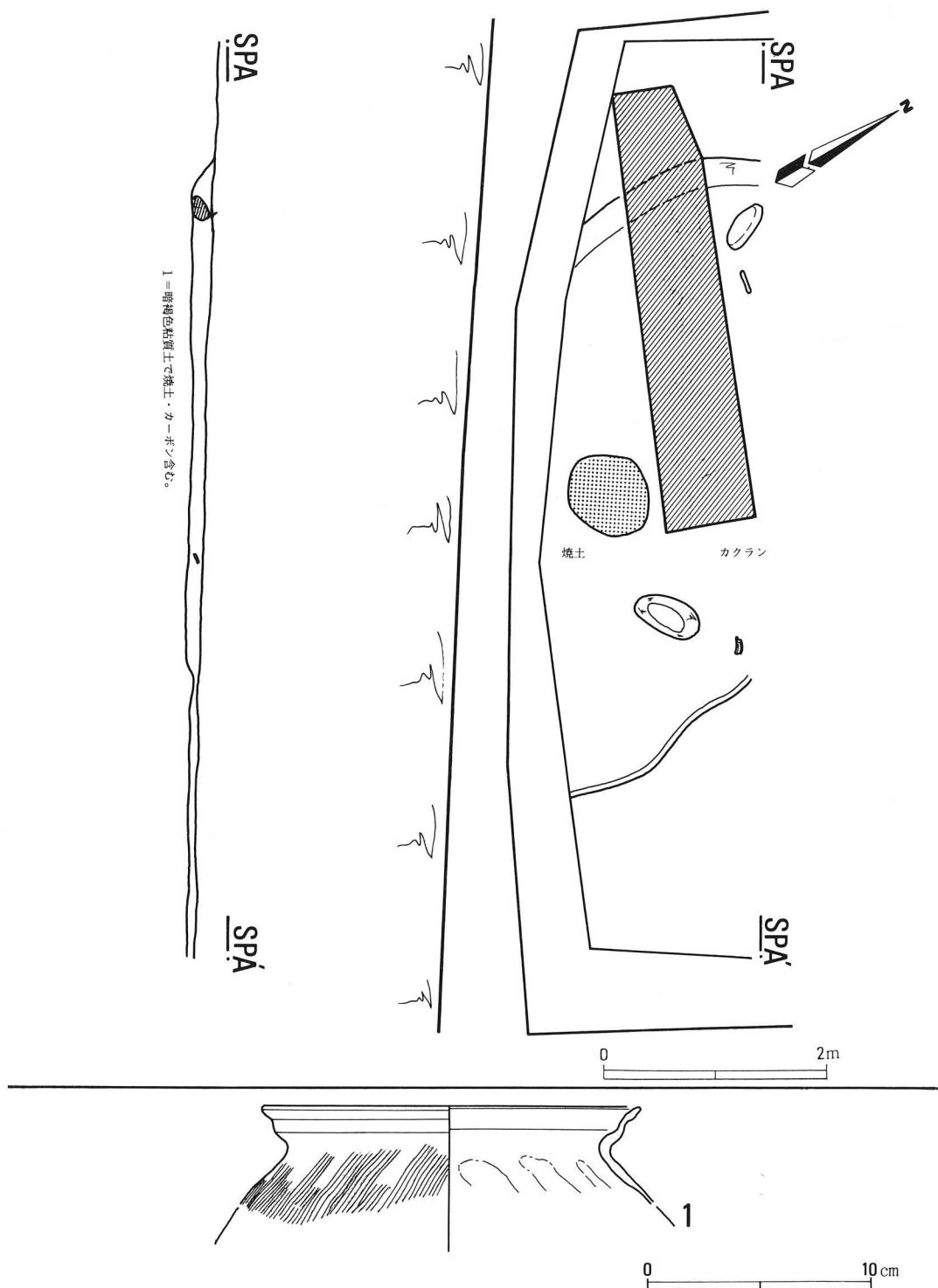
第1図 曲田遺跡と周辺の遺跡



第2図 1992年度上半期遺跡調査発表会要旨より転載  
曲田遺跡全体図 (1/800)



第3図 曲田遺跡調査位置図



第4図 曲田遺跡平面図及び出土遺物

## 4 遺構と遺物

### (1) 遺構

遺構・遺物が確認された、5号トレンチ（第1図）を拡張して調査を行った結果、遺構と思われる落ち込みを検出した（第4図）。覆土は、暗褐色を呈し、焼土・カーボンが含まれる。調査範囲が狭いため、この土層が遺構覆土なのか、遺物包含層なのかは、平面及び断面では判断はできない。規模は、推定長径4.2mを呈する。搅乱により、西側の部分は確認できなかつたが、壁高は15cmを測る。また、底面には、焼土の集中箇所が直径0.7mの円形を呈する形で検出されている。また、部分的に、炭化材も見られた。

遺物は、S字状口縁台付甕の口縁の一部が出土していることから、古墳時代前期の住居址または、隣接する曲田遺跡の集落にかかわる一連の遺構であることは間違いないものと思われる。

### (2) 遺物

遺構と思われる部分から、S字状口縁台付甕など小破片を含めると、相当量が出土している。（第4図）1・推定口径17.2cmを測る。口縁部の屈曲は緩やかで、胴部外面にはハケ調整が施される。胎土は粗く、金雲母・石英を多く含む。色調は、明褐色を呈する。

## 5 まとめ

今回の曲田遺跡は、道路拡幅のため調査面積が18m<sup>2</sup>と非常に狭く、完全な調査は出来なかつたが、隣接する牧丘町遺跡調査会がおこなった集落遺跡の一部と思われる遺構が確認された。古墳時代前期の住居址と思われる遺構であったが、遺物も図示できるものは1点だけであるものの、時代の決定ができた。隣接する集落遺跡では該期の住居址が13軒検出されていることから、この集落にかかわる一連の遺構と思われる。

本稿をまとめるにあたって、牧丘町教育委員会大崎文裕氏からご教示を得、また資料の実見に際して便宜を計っていただきました。末筆となりましたが記して感謝いたします。

## 註

1) 大崎文裕 1992 「曲田遺跡」『1992年度上半期遺跡調査発表会要旨』

## 引用・参考文献

- ・山梨県教育委員会 1979 『山梨県遺跡地名表』
- ・牧丘町誌編纂委員会 1980 『牧丘町誌』
- ・文化庁文化財保護部 1981 『全国遺跡地図 山梨県』
- ・「角川日本地名大辞典」編纂委員会 1984 『角川日本地名大辞典 19 山梨県』



曲田遺跡試掘調査風景



5号トレンチ調査風景（北東側より）



5号トレンチ調査風景（南東側より）



5号トレンチ完掘状況